



2026 年 7 月 30 日放送

学薬アワー 2025 年度全国学校保健調査集計結果報告

日本薬剤師会 学校薬剤師部会
幹事 畑中 範子

2025 年度全国学校保健調査集計結果報告をさせていただきます。なお、申し上げる数値は、まだ暫定値ですので、お含みおき願います。

毎年、全国学校保健調査にご理解ご協力を頂き、ありがとうございます。2025 年度は「プール水の水質検査、施設・設備、日常点検」をテーマにし、2024 年 4 月～2025 年 3 月までの活動報告になります。今回も WEB での回答をお願い致しました。

2025 年度回収した校数は、35,341 校でしたが、ユーザーによる削除 2,300 校、同一校で 2 枚以上の提出による削除 690 校を除いて、有効回答数は、29,251 校でした。

なお、2024 年度全国学校保健調査は、回収全件数 31,648 校、ユーザーによる削除件数は 2,144 校、同一校で 2 枚以上提出による削除件数は 426 校、有効回答数 29,076 校でしたので、昨年度より 175 校増えました。

今回の報告は、時間の関係で、都道府県ランキングは、省略させて頂き、主な設問だけご報告致します。基本情報は昨年同様の設問で、大幅に変わった数値はございませんでした。

- 1-2 本務の職場は、「薬局（開設者）」27.6%、「薬局（勤務者）」59.7%、で昨年同様、変化はありませんでした。
- 1-4 新たに設問「2024 年度の学校薬剤師に関する研修会の受講回数」では、「1 回」が一番多く 32.7%、次に「0 回」27.8%、「2 回」19.6%、「3 回」8.9%、「4 回」3.6%、「5 回以上」7.3%でした。
- 2-10 2024 年度における出校日数（メール、電話対応及び給食センター立ち入り検査も含む）が一番多かったのが「7～4 日」42.5%、次に「3～1 日」23.9%、「11～8 日」18.4%、「12 日以上」12.7%、「0 日」2.5%でした。

- 2-11 出校した人へ出校目的についての設問**（複数回答可）では、「定期検査」97.8%が一番多く、ついで「学校保健委員会」30.9%、「薬物乱用防止教室、講話・講演および支援」27.0%、「その他保健教育に関する講話・講演及び支援」17.2%、「臨時検査」12.3%、「医薬品教育」6.7%でした。
- A-1 授業・クラブ活動で利用しているプールについての設問**（複数回答可）では、「屋外プールがある」58.0%、「屋内プールがある」2.2%、「幼児用簡易プールがある」11.1%、「プールはあるが、他の施設を利用している」5.9%、「プールはないが、他の施設を利用している」6.8%、「プールは使っていない（他の施設も利用していない）」17.7%でした。
- A-2 プールに利用している水の種類**は、「水道水」92.1%が一番多く、「水道法水質基準に適合する井戸水、河川水、湖沼水」7.3%でした。
- A-4 水質検査の採水及び測定の実施者についての設問**では、「採水は学校薬剤師又は学校職員が行い、測定は薬剤師と検査機関が分担して実施」61.3%が一番多く、ついで、「採水は学校薬剤師又は学校職員が行い、測定はすべて検査機関が実施」21.9%、「採水、測定共に検査機関が実施」13.6%、「学校薬剤師が採水について学校職員に事前指導または採水に立ち会い、採水又は測定はすべて検査機関が実施」3.1%でした。
- A-5 水質検査について、検査項目への検査実施状況、検査結果の適合・不適合**（後日改善がされた場合も含む）の問いでは、時間の関係で、遊離残留塩素だけ、抜粋してご報告致します。「検査を行った」99.5%、検査の結果「適合」92.49%、「指導・助言を行い改善された」89.1%、「指導・助言を行ったが改善されなかった」7.0%、「指導・助言を行わなかった（結果報告のみ）」3.9%でした。
- B-1 循環ろ過装置の設置**では、「ある」90.3%、「ない」9.7%でした。
- B-2 循環ろ過装置の種類**は、「砂ろ過装置」44.1%、「珪藻土ろ過装置」31.0%、「カートリッジろ過装置」24.9%でした。
- B-3 循環ろ過水の濁度検査用採水栓を設置**については、「設置している」80.8%、「設置していない」19.2%でした。
- B-4 塩素注入装置**については、「使っていた」78.3%、「使っていない」21.7%でした。
- B-5 プールに使用している塩素剤**（複数回答可）は、「次亜塩素酸ナトリウム」50.5%、「次亜塩素酸カルシウム」16.5%、「塩素化イソシアヌル酸」34.0%、「その他」3.8%でした。
- B-7 屋内プールがある学校に対して行った検査の実施状況**についての設問では、「空気中の二酸化炭素」42.2%、「空気中の塩素ガス」34.0%、水平面照度 35.8%、行っていない」55.6%との結果でした。

プールの日常点検の状況の設問への集計結果

- C-1 水質**について以下の項目の点検（複数回答可）の設問については、「水中の危険

物、異常物有無」89.7%、「遊離残留塩素」96.6%、「水温」95.7%、「気温」89.2%、「pH 値」78.2%、「透明度」74.3%、「行っていない」1.9%でした。

C-2 WBGT（湿球黒球温度：Wet Bulb Globe Temperature）を利用して、熱中症予防対策については、「行っていた」80.5%、「時々行っていた」5.2%、「行っていない」14.3%でした。

C-4 日常点検の結果について、プール日誌の確認についての設問では、「確認した」88.5%、「確認しなかった」11.5%でした。

幼児用簡易プールを使っている幼稚園・認定こども園に対して行った設問への集計結果

D-1 水の浄化は、「塩素注入装置がある」2.1%、「直接塩素剤を投入している」76.25%、「ろ過装置がある」3.5%、「浄化をしていない」21.5%でした。

D-2 実施した検査項目は、「遊離残留塩素」71.65%、「pH 値」18.5%、「大腸菌」37.96%、「一般細菌」16.15%、「有機物等」5.6%、「総トリハロメタン」0%、「循環ろ過装置の処理水の濁度」0.35%でした。

まとめ

プール施設の老朽化により、水泳授業が取りやめになったり、民間施設を活用する等、学校における水泳授業のあり方が多様化しています。「屋外プールがある」との回答が、2018年度調査では、78.3%であったのが、今回の調査では、58.0%とかなり屋外プールが減っている現状があります。また、循環ろ過水の出口検査の為に採水栓を設けることが必須なので、ない場合は、改善指導を行う必要があります。学校のプール授業では、WBGT が 31℃以上で原則中止基準があるため、定期的に WBGT を測定し、こどもの熱中症を防ぐ指導が求められます。

正式な報告書は、完成しましたら、日本薬剤師会学校薬剤師部会 HP に UP されますので、ご確認下さい。